平成２９年度高等学校授業力向上研修講座

教諭　渡　辺　　光

1.　はじめに

今年度、授業力向上研修講座を受講し、多くのことを学ぶことができた。研修を契機にこれまでの実践と現在の取り組みを検証したことで、これからの自分の教科指導における指針を見つける機会となった。

2.　研修の内容

９月１９、２０日の２日間にわたり、グループごとに互いの授業を視聴し、その分析とまとめを行った。また、今回の研修は中高合同という形式になっており、他校種における授業づくりについて意見交換をする機会も設けられた。

まず初めに、私の授業については多くの助言や質問をもらうことができた。授業は２年生の物理基礎の授業で、エネルギーをテーマにディベートを行った。エネルギー分野において身近なテーマである風力発電を題材にして、生徒を６、７人のグループに分け、その中で賛成派と反対派に分かれて発表を行うマイクロディベートという形式とした。他の受講者からは、理科の授業でディベートを行ったことやその指導方法の部分に関する質問が多く出た。また、授業分析では、私が挙げた言語活動の評価方法やいかに科学的・論理的な議論をさせるかといった点について、意見を出し合うことができた。学習指導要領の「物理基礎」の目標には、「日常生活や社会との関連」、「科学的な見方や考え方を養う」という趣旨があり、今回の授業のねらいとも一致していたが、実践、分析を通して“科学的な”という点について、もっと深く教材研究や指導方法の工夫をする必要があると感じた。

次に他の受講者の授業については様々な発見をすることができた。SSH 指定を受けている学校では、その後の課題研究を想定した実験活動を取り入れた授業を行っていた。また、同じ物理の授業では、グループで行う演習の時間確保のために KP 法を取り入れた授業を行っていた。他にもそれぞれの授業のねらいに応じて指導方法の工夫がされていた。特に印象的だったのは、「主体的・対話的で深い学び」をねらいとして行っていたグループワークなどにおいて、そうした活動が苦手な生徒もいるということへの配慮と工夫の必要性について、指導主事が助言されたことだった。

今後の授業改善においては、授業のねらい・目的にあった指導方法を選ぶことが大切であり、指導方法が授業の「目的」になってしまわないように考えていきたいと思った。

他校種における授業づくりに関する意見交換では、中高の接続、内容の関連などについて知ることができた。なかなか知ることができない中学校の授業や指導内容について聞くことで、日々の指導の奥行きを深めるきっかけを得ることができた。

3.　研修を終えて

今回の研修は、初任者研修で学んだことを実践してきた２年間を振り返るとともに、これからの指導のあり方を考える良いきっかけとなった。研修の初めに指導主事から説明された「授業においては、動機づけ（motivation）が感動(emotion)につながる。」という話は、まさに私が教科指導におけるコンセプトとしていたことであり、私自身も高いモチベーションで研修に臨むことができた。私は、理科の授業は教科書にある数式を身のまわりにある自然界といかに結びつけられるかが分かりやすい授業、興味を引く授業につながると考えている。そのため、今回の研修で様々な授業実践に触れて感じたことや考えたことをもとに指導のあり方を再構築していきたい。

最後に、今回の研修では校内においても、多くの先生方にご指導いただき、大変勉強になりました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。